

こだわりは 性別よりも 生き方に

クローバー あおもり

clover* aomori*



トークトーク

海外派遣

C・O・N・T・E・N・T・S

- 青森県の女性たち～岡見京子
- 多様な生き方・働き方
県の融資制度を活用し“起業”に挑戦
～調剤薬局つくし薬局
- トップインタビュー 尾上町 成田武憲町長
- 市町村コーナー 板柳町・六ヶ所村

No.6 2004.3

見て、聞いて、感じて、生かす

海外派遣事業参加者座談会



白井 壽美枝さん
(進行兼務)
平成10年度ノルウェーとデンマークで研修。青森市男女共同参画プラザ・カダール館長。



三上 富士子さん
平成12年度アメリカとカナダで研修。社会福祉士。



坂本 国次さん
平成14年度オランダ、ドイツ、フランスで研修。青森市立中学校教諭。



藤原 重行さん
平成15年度ニュージーランドとオーストラリアで研修。青森市で銀行勤務。

各国の男女共同参画事情

藤原：一番印象に残っているのは残業が少ないことです。5時くらいに帰るんです。

ホームステイ先の60歳代のご夫婦は、子育ても家事も一緒。ニュージーランドでは妻が料理を作って、夫が皿洗い。早く帰って残業もなく、いいなと思いました。

白井：夕御飯を家族で食べられる状況なんですね。ノルウェーでは、授乳のために国会議員が休みをとったり、夕食時には議事を休憩して、帰宅して子ども達と夕食を食べてからまた会議に戻るんです。家族みんなと一緒に暮らせて、それをやるから首になるとか、左遷されるとか、ペナルティーを負わされないで子どもを育てられる。

ノルウェーの男女平等センターで対応してくれた女性はお子さんが小さく、「子どもの迎えのため、4時に終わらせていただきます」と言ったんですよ。すごいなって思いました。

坂本：(オランダ、ドイツ、フランスは)男女共同参画の先進国だ

と思ったのですが、男女の区別がはっきりしていて、女性は大切にされますが、仕事でも何の面でも男性が高い地位を持っているようです。特にミュンヘンで感じました。平等だと思っていたら、そうでもなかった。

藤原：こちらもそうです。ある程度進んでいるけど、まだまだ。政府や、男性に分かってもらえない状態。大変なんだなと思いました。

白井：ノルウェーでは、もうここまでやった、もう男女平等じゃないかという意識が男性に多いそうです。でも、実際は平等の到達点は本当に遠く、ポイントを見極めて、少しずつやっていかなければならないと言っていました。

三上：アメリカのナースিংホームでは男性が案内してくれました。アメリカが一番男女平等が進んでいるかもしれません。

人権尊重の社会

三上：アメリカもカナダも当たり前のこととして、人権という意識がありました。ナースিংホーム

でケアする側のネームプレートに「私たちは絶対虐待しません」、裏には「虐待を見たら通報します」と書いてありました。

虐待審議会では、保健所、警察、相談所などを繋ぎ、女性や子どもを虐待の被害から守りましょうという取組みを見ました。箱ものではなく、ネットワークなんですよ。

ニューヨーク郊外のDV(ドメスティックバイオレンス)シェルターでは、中国や東南アジア、移民の人達が入っているのですが、そういう人達に対しても差別する事なく、とても良いケアをしていました。

産む権利、産まない権利を熱く語る女性もいました。リプロダクティブ・ヘルス&ライツをブッシュ大統領が政治的に制限しようとしていることに抗議をすると言っていました。

白井：「性」のとらえかたは宗教的な部分でも違うかも知れませんよね。日本で少子化支援の法律ができて、不妊治療の援助や、産みましょうというのがあるけれど、産めない人達の気持ちに無神経か

女性のエンパワーメントや男女共同参画社会の実現のために、海外の先進的な事例を学ぶ県男女共同参画研修事業があります。平成12年度までは女性のみでしたが、平成14年度からは男女共同参画という視点から男女の参加になりました。この研修に参加した4人の皆さんにお話を伺いました。

などというところもあります。
三上：男の人のサイドで進んでるんですよ、そういう政策って。

白井：産むことが女の幸せって、言う女性もいますよ。産みたくても産めない人もいるしねえ。いろんなことを考えると、人権にもっと敏感にならなきゃと思いますね。

当事者主役の福祉と教育

白井：オスロの老人病院は、カーテンや壁がすごくきれいでした。テーブルも椅子も木で、こぼしたら後が大変という布張りです。日本だったら掃除がしやすいような材質や色でしょ。

坂本：利用は無料ですか？

白井：ほとんど年金です。消費税は23%と高いですが安心できると思いました。25%のデンマークでは高い税金の使い道をみんなが見守って、それだけの事をしてもらおうという意識を持っているとか。

藤原：シドニーの高齢者福祉施設では、自宅からいろいろ物を持ってきて、自宅にいるように飾りつけるといって居心地良さそうでした。二世帯・三世帯家族とい

うのはなく、成人すると同じ地域にいても一緒には暮らさないみたいです。

三上：アメリカは個人主義で、老後も自分たちのお金で、自分たちで考える、ということでした。

坂本：(派遣先の)公立の学校が無料というのも驚きました。

白井：大学もそうですよね。ノルウェーも同じです。

ノルウェーの小学校の会議には教育委員会とか、学校・両親の代表の他に、子どもの代表が入っているんです。「子どもの事を決めるのに子どもがいるのは当たり前でしょ」と言うんですよ。

離婚とシングルマザー

藤原：オーストラリア・ニュージーランドとも景気はいいみたいです。移民をどんどん受入れるので家が建ち、鉱工業の輸出で、かなり潤っているようです。

働く女性の比率は高いですが、女性の管理職は平均で10~15%くらい。離婚率は高いみたいです。

坂本：フランスでも離婚が多く、子どもはほとんど母親に引き取られるそうです。1か月に1回子どもと会う約束をしても、守らない女性が非常に多く、これじゃない、父親はもっ



アメリカのDVシェルター。侵入者を防ぐため、事務室に設置された監視カメラ。

と頑張ろう、と支援している団体の事務所「SOSパパ」に行ってきました。

白井：ノルウェーでも離婚は多いですね。教科書に、お父さんは新しい彼女とお母さんは新しい彼と一緒にそれぞれとても幸せですとあります。

シングルマザーが多く、彼女たちのおかげで少子化は食い止められているそうです。彼女たちの自立への社会のサポートがあるからだということです。

藤原：オーストラリアもシングルマザーは多いようです。仕事の機会は均等で、女の人も一生懸命やって、それなりの地位や収入は得るんだという話でしたが、一般的に女性の賃金は低いみたいです。

白井：バスの運転手だとか、いわゆる男性職にも女性はいましたか。

藤原：逆にカンタス航空の客室乗務員は、男性でした。

坂本：フランスでも男性の客室乗務員がいましたね。

藤原：給料があがれば、女性のそういう職業にも男性がいくんじゃないですか。

白井：そう、安いから選ばない。日本でもそうじゃないのかな。



カラフルなカーテンがすてきなオスロの病院

参加の動機や周囲のサポートは

坂本：妻に勧められ応募しました。職場でも行ってこい、行ってこいって言われました。生徒も含めて。



紙のかぶとが人気だったニュージーランド

海外旅行は初めてですが、私ももう一人の団員と、東奥日報の記者と男性が3人。楽しかったです。**藤原**：私は大学で社会学を専攻して、上野千鶴子さんの本を読んだりして、ジェンダーには興味があったんです。

でも、世の中には古い考え方の人が多くいるなと思いましたね。男女共同参画の研修によく行くなあという感じはありました。

三上：小学生2人を置いて行くので不安でした。親と同居しサポートがあるので、恵まれたほうです。

2歳くらいの子がいるメンバーがいて、空港でその子どもが泣くの。彼女も泣いて、みんなジーンとききました。

白井：私は高校受験生をかかえ、下はまだ小学生。お弁当があるから次回にしようと思ったら、夫が「御飯なんか、僕たちが作ればいいんだから行ってきて」と言ってくれて。回りからは言われましたよ。「受験生を置いていく母親がいる」って(笑い)。

研修で自分が変わったことは

三上：ソーシャルワークが、施設や特定地域だけでなく、社会の中で生かされて初めて力を発揮する事を学びました。考え方や思想に触れ、自分を刺激でき、自信を持つことができました。メイン州の女性の議員が、「私は家庭にいることを選んでいる」と話していました。自分らしく生きて、自己選択をして生きているなあ

という感じ。

坂本：平等に対して考え直さなきゃいけないと思ってます。そして、子どもたちにはこっちから教え込むのではなく、彼らが判断できる材料を与えてやればいいんじゃないかな。

豊かさについても考えました。自転車優先道路やまちなかへの車乗り入れ禁止地区、歴史的な町並み保存など根本的なことを考えてると思いました。自転車通勤をすると、税金が安いそうです。ボランティアについてのしつけとか、こう見ると、日本は逆に精神的に貧しいんじゃないかと思えます。

白井：豊かさの価値観ですね。男女共同参画も、教科書でだけ教えるのではなく、日常の中で伝えなければ、わからないですよ。

坂本：授業がどうかではなく、学校生活全部ですね。

三上：男女混合名簿について学校

で話したんですが、関心がないようでした。

坂本：混合名簿でいいんですよ。但し、教師の側で男子のみ、女子のみの名簿も作るし、他にも用途によって作り変えますから。

白井：混合名簿だと、身体検査や修学旅行で男女同室になるのかと誤解している人がいるんですよ。そのときは別。別名簿作成はコンピューターで簡単でしょ。日常的に男・女と対比するようなのはどうかなと言ってるのですけどね。

三上：そういう意味で学校の先生が行かれたのはいいですよ。

価値観を変える

藤原：昔に比べて、銀行でも女性の管理職は増えています。でも私が女性だったら管理職の道は選ばないなあ。残業もあって大変だ。家庭を犠牲にしてもやりたい女性には、道は開かれています。



ミュンヘンの自転車優先道路

三上：家庭を犠牲にしなくてもできるというのね。

白井：「なんで日本の女性はいろんな事を我慢するの？」って言われたんです。ノルウェーの女性たちは「仕事も子どもも自由な時間も、全部欲しいのよ。何が悪いの」と。

日本で出世する女性は、今までの男社会の働き方で生き抜く女性という感じ。世の中をもっと変えなきゃだめですよ。余裕がないと

夫婦仲良くする時間もなくなってくるし。

藤原：豊かな社会ということですね。消費者としては豊かだけど。

坂本：私はこれに行って、スローライフっていうのをものすごく考えました。朝早くから夜遅くまで学校に入り浸っていたけど、土日は休みだよと思い、なんか自分で見つけたり、本読んでみようとか、考えるようになったんですよ。

白井：男女共同参画は、女が男を超えるとか、女が男並みに働けばいいんだってとらえられるから、なかなか理解が進まない。だから、価値感を変えるところをもっと上手に訴えて、いろいろな方々、男女共同参画に反対の方も交えてお話しする場ができれば、変わるかもしれないですね。

ポジティブアクションで参加しやすい環境を

三上：男女の目で見るといいですよ。日本では男性に余裕がないけどね。

白井：男性にもないし、がんばってる女性にもないですよ。余裕がないと、新しいことや面白いアイデアは生まれませんよね。

三上：ジェンダーとか男女共同参画という視点で何かやっても、女性ばかり。男性の意識が変わらないと進まないと思うんです。

白井：男女共同参画というテーマ



トークトーク。話が弾んで、時間オーバーに。

で行こうという男性はまだ多くはないでしょうね。

三上：でも、ぜひ行って欲しいと思います。

坂本：普通の仕事の方は行きにくいですよ。公務員は、県の事業で研修目的だから行きやすいです。

三上：中小企業では首が飛ぶかも。男の人のほうが背負ってるものが大きいんじゃないですか。

坂本：一般企業に、県から働きかけをしていかないとね。そうするともっと応募が増えるんじゃないかなあ。男性の場合は特にね。

30万円もかけて10日間もいなくなって…それは考えますよ。

白井：ノルウェーで男女平等が進んだのは、ポジティブなアクションです。例えば、女性職に男性が入らないし、女性が男性職に入ってくれなかった。そのために学校での職業教育や企業へのメッセージを出しているんです。罰則もあるようです。

県でも、それをやった企業には少しだけ援助をあげるとか。意識だけでは進まないと思うの。

藤原：企業は法令を順守することに非常に気を使っています。法律があると、それを気にして良い方向に行くことはあると思いますね。

白井：中小企業はどうですか。お金の現場にいらして。

藤原：企業間競争が激しいですからね。有給とか良くしたことで倒産したとか、あり得るわけですよ。ポジティブアクションでみんなを同じ土壌に上げていくのは必要でしょうね。



各国の旗が壮麗な国連

経験を生かしてステップアップ

白井：みなさん、すごくいろいろなものを持って帰っていらして、職場でも家庭でも地域でも生かしているんですよ。この事業は大変でしょうけれど、ぜひ継続してほしいですね。

こういうふうには、集まって語りあうのはいいですね。次はこんなことをしようとか、混合名簿や企業へのポジティブアクションを考えるとかな。

県への要望ですが、活動している人たちが行ける次の機会も欲しいですね。活動していると新たな発見をして、もっと追及してみたくなるでしょ。そのときの受皿があったらいいなあ。

そして青森からスローライフ。新しい風が吹いて、素晴らしい青森ができればいいですねえ。みんなが青森に来て住みたいなあ、みんな青森に行こうと思うようになったらいいですね。

※リプロダクティブ・ヘルス&ライツ「性と生殖に関する健康と権利」と訳される。個人、特に女性が生涯に渡って、主体的に自らの身体と健康の保持増進と自己決定を図ることと、そのための身体的・精神的・社会的な諸権利が基本的人権として保障されることをいう。

平成15年度 ジェンダー川柳

性別にとらわれず、ひとりひとりの個性が尊重されるのが「男女共同参画社会」です。男女共同参画についての想いを五七五で表現する「ジェンダー川柳」を募集したところ、138句の応募がありました。

最優秀賞

かしお
清水稼志男さん



最優秀賞の清水稼志男さんは、昭和12年生まれ(66才)。藤崎の「白鳥を守る会」の会員で、時間があると白鳥たちを眺め、そこを訪れる人たちとの会話を楽しまします。

「ジェンダーや男女共同参画については10年前から知っているが、自分が実際に実行するのは、正直なところなかなか難しい。それでも男女が自然に家事、育児の分担をし、好きな職業にも就けるような世の中になればいいなと思っている」と語ってくれました。家庭では「亭主関白」と笑う清水さんのまなざしの向こうで、パートナーの寿子さんがニコニコと笑っていたのが印象的でした。

優秀賞 (10句)

両性で築くあおもり 唐牛 精一	参画の資格も五角男と女 鳥谷部 一雄	はいポーズ男女が混じる 小田 桐慶幸	ママごとのお家は既に 工藤 ハツネ	大特のおペレーター 浜田 孝光
パパ達が公園デビュー 滝内 政子	「らしさ」とは性より個人に 渋谷 和広	こだわりは性別よりも 今野 真理	お袋も親父の味も思ひ出す 下山 まり子	認め合う男女が造るユートピア 小泉 信幸

●この中から今野真理さんの作品を副題に採用させていただきました。

●あおもり女性大学公開講座●

「メディアにおける男女共同参画について」

(平成15年7月18日)

7月18日、あおもり女性大学(公開講座)が開催され、特定非営利活動法人青森県男女共同参画研究所(以下「研究所」)が、調査研究「メディアにおける男女共同参画に関する現状と課題 - 青森県のマスメディアに対する現状調査 -」の報告を行いました。

この調査研究は平成14年度に青森県男女共同参画センターが研究所に委託し、県内の主要メディアを対象に行ったものです。

メディアの会社組織や報道内容における男女共同参画の現状について、メディア側の取り組みを評価しつつも、まだまだ課題があるとの調査結果を報告しました。(詳しい調査結果については情報ライブラリーで閲覧することができます。)

会場に集まった参加者は青森県のマスメディアの現状と課題について熱心に聞いていました。



7月18日の報告会の様子

青森県の女性たち

～明治前期の女子医学留学生～

岡見京子

北原 かな子
(元青森県女性史編さん委員)

岡見京子とは、青森県出身で明治17(1884)年にアメリカのペンシルバニア女子医科大学に留学、明治22年同大を卒業して、医学博士の学位を取得した女性である。現在のところ、アメリカに医学留学した初の日本人女性と目されるが、これまで青森県において、その存在が取り上げられたことは、ほとんど無かったといつてよい。

京子は安政6(1859)年、南部藩士である西田耕平、みよの長女として大畑村に生まれた。8歳の時に両親とともに上京、父は貿易商となった。明治6年、日本婦女英学校、後の共立女学校に入学し、来日女性宣教師M. T. ツルーたちの薫陶を受ける。ここでキリスト教に触れた彼女は、間もなく洗礼を受けた。卒業後英語の教師をしていたが、明治17年、岡見千吉郎と結婚して12月に渡米、ペンシルバニア女子医科大学に日本人初の女子医学留学生として入学した。そして、5年後の明治22年、医学博士の学位を得て卒業したとされる。

帰国後の京子は、慈恵病院に新設された婦人科主任に就任したが、わずか3年ほど後に突然辞任

した。明治30年に「衛生園」を設立して女性の病後保養や看護教育に力を入れるが、明治39年にそれが経営難から閉鎖となった後は、女子学院で英語や生理学を教え、明治41年に病のため退職、昭和16年に亡くなった。(享年82才)

以上の略歴から分かるように、京子はキリスト教の影響を受けた女性である。男尊女卑の風潮が強かった明治前期の日本で、男女平等思想に基づくキリスト教が女子教育において為した貢献はきわめて大きかったが、京子もその一人に数えられると思われる。

アメリカで医学の実力をつけて帰国した京子は、明治30年代には、優れた女医として知られていた。当時の高名な女医の実力は、時に男性の医師を上回る場合もあり、たとえば『報知新聞』は、開業試験成績における女性医師の平均点が、男性医師より高いと伝えている。そして、その「実力ある女医」の中には、アメリカで研鑽を積んだ京子も含まれている。

渡米したときの京子は、あまりにも弱々しく見え、迎え入れた側は、本当にこれで学業を全うできるのかと危惧したという。しかし最後には、見事に学位を取った彼女のしなやかな努力を、周囲は称賛した。

また、帰国後、厚待遇で迎えられた慈恵病院を突然辞任した理由は明かされていないが、一説によると、実力のあるなしかかわらず、男性医師が上位に来るシステムに抗議する意があったためとも伝えられている。たおやかな外見とは別に、強い意志があったことも感じさせる。

おそらく、アメリカで京子が学んだのは、医学だけではなくたのらう。男女平等思想、すなわち、女性でも一つの人格を持った存在として生きるという、現代にも通じる生き方も、身に付けたことの一つだったのである。



岡見京子(1859~1941)



くつろげる畳のスペース



奥には相談室が…



新しい薬の勉強は欠かせない

県の融資制度を活用し “起業”に挑戦

調剤薬局 つくし薬局

- 所在地：八戸市南類家5丁目
- 開業：平成14年4月
- スタッフ：薬剤師2名（三宅さん夫婦）他3名

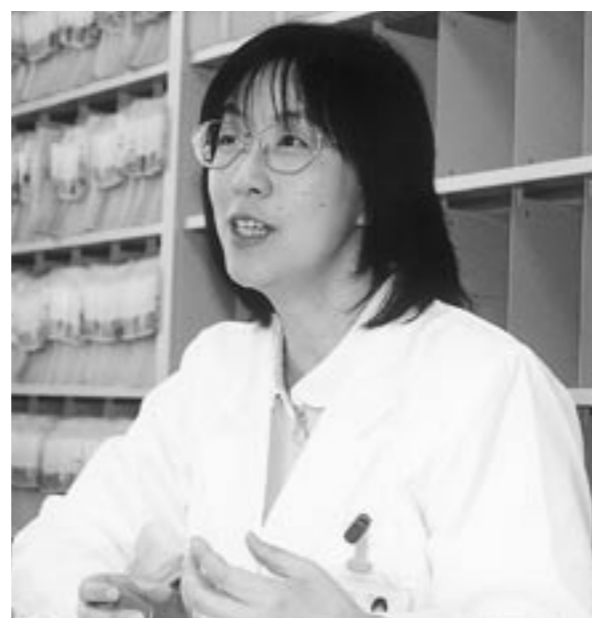
有限会社みやけ調剤薬局「つくし薬局」は、八戸市南類家に平成14年春オープンしました。開業するにあたって県の融資制度を活用。「当初、事業計画を最低ラインで立てていたんですよ。そうしたら担当の方から事業というのはいやなんだって言われて」と苦笑する取締役の三宅史子さん。アドバイスを従い、前向きな計画書になるよう何度も書き直し、ついに融資の獲得に成功。

長年の薬剤師としての経験から開業は「一人でも大丈夫」と思っていたのが、初めての妊娠、出産と重なり、同じ薬剤師であるパートナーが脱サラして起業に参画してくれることに。

薬局の営業時間は隣接する病院の診療時間に合わせ、午前9時から午後9時15分まで。パートナーの範史さんは毎朝8時30分に、史さんは子どもとともに朝10時に出勤します。

「朝起きて、子どもがぱちっとするまでの間って、結構時間がかかりますよね。その時間ってもしかしたら子どもにとって、一番大切な時間なのかな」と、朝の時間をたっぷり子どもに愛情を注ぎ、それ以降は仕事に専念する史子さん。仕事中は薬局の2階でヘルパーさんに子どもを見てもらっています。

明るい陽光が差し込む薬局の待合室には畳敷きの一角が。「自分で子どもを産んでみて初めてわかったんですが、小さい子どもを抱いてベンチに座るの



「女性が子育てしながらも働きつづけやすい職場環境をこれからも作っていききたいですね」と語る三宅史子さん。

は危ないし目が離せないんです。お客さまにとって、居心地の良い薬局にしたかったから、ゆっくりくつろげる畳のスペースを作ったんですよ」と史子さん。

お客様につくすという意味も込めて名付けた『つくし薬局』。その名の通り、あちらこちらに心配りがうかがえます。ベンチは座ってから立つのが大変という高齢の方でも立ちやすい高さに工夫。待合室と薬の受け渡しカウンターとの距離を離し、つい立を設置して、お客様のプライバシーに配慮。詳しく薬の説明を聞きたい方のための相談室の確保等々。

ハード面のみならず、雇用面でも求職中だった史子さんの友人に薬局で働いてもらっています。「お互い子育て中だから時間に融通がきいて、助け合えるのは起業の成果かな」と史子さん。子育てをしながら働き続けるためにはこのような“起業”も選択の一つといえるでしょう。

編集スタッフの

トップインタビュー

尾上町



「尾上は以前から植木の町、庭園の町、蔵の町。近隣町村からも高い評価を得ているんですよ。」と、尾上町自慢の景観についてにやかに話して下さる成田武憲（なりた たけのり）町長。

女性が元気だと町も元気

Q1 尾上町の男女共同参画の推進状況をお聞かせください。

尾上町では男女共同参画社会の実現に向けて平成13年に委員会を組織しました。重点目標として最も力を入れているのは「男女平等の視点に立った教育の推進」です。具体的には子どもから大人までの男女共同参画社会を推進すべき意識啓発です。講演会、セミナー等を併せた意見交換会等も開催してきました。今年で3年目に入ったわけですが、ただ研修会や講演会を実施するだけでなく、婦人会やPTA等、各団体へ出向いて更に積極的な働きかけをしていくという方向で進んでいるのが今の状況です。14名の男女共同参画推進委員は、教育関係や各団体の代表者等、幅広い分野の男女から構成されています。会長が熱心で、リーダーシップを発揮して、取り組みは最近特に活発になってきました。

Q2 農業・農村における男女共同参画について

尾上町は農業の町ですから、第一産業の農家の所得があがらないと景気も良くなりません。ですから今までの農業の形態ではなく、農家も給料制にもっていかないと。働く意欲を伸ばすためにも、最近では農業委員会が家族農業協定をすすめており、尾上では4組あります。農家もそういう取り組みに積極的になってきましたし、これからは徐々に増えていくと思います。

町でも、10年に農家の女性4名を農業視察研修で海外派遣しました。15年には初代の「県りんごレディ※」として女性農業者1名が認定されています。女性の団体が積極的にいろいろなものに参加して、大

いに見聞を広めて欲しいです。

※県りんごレディ…県りんご協会が県内各地で指導的役割を果たしている女性を認定し、功績をたたえるものである。

Q3 尾上町の女性たちに期待していることは。

私としては、女性の管理職や各種審議会に女性を積極的に登用したいと思っていますが、まだまだ男性より発言力が少ないのが現状です。目標は女性登用率を30%にアップすることです。

女性が入っていない審議会もありますから、最低1～2人は女性を入れたいと思っていますが、ある程度の発言力、自分の考えを持つよう、女性も頑張らなきゃいけない。そのための学習会や研修会も必要だと思っています。

女性が元気であれば、町も元気だと思います。今年で3回目になる「津軽よさこいフェスティバル」のチームのリーダーはほとんど女性でした。女性のパワーがなければ町は活性化しないのかもしれない。



尾上の女性の活躍について編集スタッフと語りあう成田町長（10月20日取材）

「相談室」のご案内

こんなときにはご相談ください

- 夫婦・親子・嫁姑のことで悩んでいる
- 体や性に関することで悩んでいる
- パートナーからの暴力で悩んでいる
- 男女関係のことで悩んでいる
- セクシュアル・ハラスメントで悩んでいる
- 人に言えない悩みがある
- 近所、職場などの人間関係で悩んでいる
- 誰に相談していいのかわからない

まず電話でご相談を (匿名可)

相談員が、解決方法をさぐっていくお手伝いをしています。

男女共同参画センター相談室
TEL 017-732-1022

まずは
お電話



受付時間は

- 一般相談 午前9時～午後4時 (水曜日・年末年始休み)
- 専門相談 ★法律相談 (電話予約制) 第2、4火曜日 14:00～16:00
★こころの相談 (電話予約制) 第3金曜日 14:00～16:00

豆知識

ポジティブ・アクションってなに？

積極的差別是正措置と訳され、過去における社会的・構造的な差別によって、現在不利益を被っている集団 (女性や人種のマイノリティー) に対して、一定の範囲で特別な機会を導入すること等により、実質的な機会均等を実現することを目的とした暫定的な措置のこと。

しかし単に女性だからという理由だけで女性を「優遇」するためのものではなく、これまでの慣行や固定的な性別の役割分担意識などが原因で、女性は男性よりも能力を發揮しにくい環境に置かれている場合に、こうした状況を「是正」するための取組みなのです。

たとえば

①担当させた取引先から「女性は困る」と難色を示された。
→「意欲や能力が充分ある社員だから担当にした。」ということを手相方の取引先の理解が得られるよう説明した。

②責任ある仕事を任せようとしても、主に女性は補助的業務に配置されていたため、しりこみする女性が多い。

→このような女性を対象に研修を行い、必要な知識・技術とともに自信をつけてもらう。

などがあげられます。

女性の能力が十分に發揮されないのは、企業にとっても大きな損失です。
女性の能力發揮を図るためにも積極的なポジティブ・アクションが望まれます。

板柳町 オープンカレッジ出前講座 (平成15年7月12日)

誰もが自分らしく輝いて生きるために



7月12日(土)、板柳町多目的ホール「あぶる」において、県男女共同参画センターと共催した出前講座が開催され、「男女

の生き方」に関する数多くの著書で知られる作家の吉武輝子さんが、会場に詰めかけた約百名の聴衆を前に講演されました。

吉武さんは、自分や家族の体験を交えながら、いままでの男女の生き方の矛盾点を指摘し「職場での地位や肩書きはいずれ失うし、子どもはやがて巣立つもの。かつての美学であった仕事や子育て一筋に埋没することなく、誰もが持っている能

力や才能を無にすることがないように、常に、他でもない自分という人間を育て上げる工夫を忘れてはならない」と力説。また、「何歳になっても新しい自分の才能と出会うチャンスがある。遠慮せず、いろんな事にチャレンジして輝いてほしい」と呼びかけていました。

また、アトラクションではJA板柳女性部による健康体操で会場がリラックスモードに包まれました。

(板柳町生涯学習課 成田派遣社会教育主事)

市町村

コーナー

六ヶ所村 女性団体と行政とのふれあい

(平成15年6月15日)

村の4役とふれあった女性のつどい

六ヶ所村の女性団体連絡協議会は、去る6月15日(日)に「女性団体と行政とのふれあい」を六ヶ所村中央公民館で開催しました。

六ヶ所村女性団体連絡協議会 (以下「女連協」) は村内で活動する女性団体・サークル11団体で構成されています。

参加者は村側から村長・助役・収入役・教育長が出席し、女連協からは、75名が参加しました。

当日、テーブルの上には季節の花が生けられ、華やかな雰囲気の中で行われました。

女連協の会長の挨拶のあと、各団体から男女共同参画や核燃サイクル施設等について次々と質問や要望が出されました。

それらの質問に村長は一つひ



とつ丁寧に答えていました。

交流時間は2時間足らずでしたが、中味のあるものでした。

参加者からは「こういう機会をまたつくってほしい」という声が聞かれました。

わが村は、まだ「男女共同参画推進委員会」が立ち上がって

おりません。男女共同参画推進委員会が早く立ち上がり、村の方向性を見据えた計画の策定をしなければなりません。今回の女性たちの声の一つでも多く行政側に反映されることを期待しています。

(六ヶ所村社会教育課 橋本社会教育補佐)

表紙あらかると

青森市立堤小学校「親父の会」



葛西 仁さん
(親父の会代表)



小倉正弘さん
(親父の会副代表)

～脱！母親まかせ～

何やら楽しそうに活動している親父たちがいる、と評判の青森市立堤小学校「親父の会」。どこにその楽しさの秘密があるのか、さっそくインタビューしてみました。

Q なぜ「親父の会」ができたんですか？

A お父さんたちは子どもたちに決して関心がないわけではないんです。PTAに参加したいと思ってもお母さんたちばかりで、好奇の目で見られたり、照れとかが先に出てしまって、学校に行きにくいんです。だから「親父の会」を作って「親父の会」が盾になったら、お父さんたちが少しでも学校に足を向けやすいのかなと思って。

「この指、止～まれ！」方式で会員を集めたんですよ。今では先生方やPTA会員以外の地域の方もメンバーになってくれています。

Q どんな活動をしているんですか？

A お母さんたちだけでは危ない夏場の夜間巡回や通学路の除雪、秋の堤まつりの模擬店、冬まつりですね。堤まつりでは、フランクフルト、焼きそば、棒パンと子どもたちの数より多めに準備しても完売ですよ!!自分の子どもだけじゃなく、子どもたちぜ～んぶと遊びたいですね。自分たちが子どもの頃にやって楽しかった遊びを、今の子どもたちにも思いっきり経験させたいですね。冬まつりでは大きなまくらを2つ作るんです。1つは完成版、もう1つはただの大きな雪山。それに子どもたちが

穴を開けてかまくらにしていって。その過程が楽しいんですよ。うちの学校は転勤族が多いから、親子で青森の冬を楽しんでもらいたいですね。

Q 「親父の会」ができて変わりましたか？

A スーパーで買い物をしていると、お母さんたちから声をかけられることが多くなりましたね(笑)。「すべては子どものために、たまには親父のために！」と、「飲みニケーション」が良い意味でのストレス発散になっています。利害関係がなく、ざっくばらんな話ができるし、異業種交流で視野も広がるし、子どものためにも親同士の親交を深めることは良いですね。それに自分たち「親父の会」が行動提起をしたことで、お母さんたちとの協働もスムーズになったし、地域の悩みや問題点も見つけることができました。

Q これからの抱負は？

A 親父が一生懸命やっている姿を見ることによって、子どもたちがいずれ親になったとき、自分から率先して協力できる大人になってくれると嬉しいですね。他人の子どもでも我が子のように怒ろう、怖い頑固親父になろう、そこには愛情があるからということで、これからもお父さんが気軽に参加できるように、お母さんたちと協力して「親父」ならではの活動をしていきたいですね。

編集後記

この編集の仕事でさまざまな方たちとお会いできることが嬉しい。自分らしく、生き生きと仕事をされている方たちとの出会いは、明日への活力を頂けるのでありがたいと思っています。(小山内)

私は、誰もが持っているけど気付かない秘密のパワーを信じています。「男女共同参画」で、輝きながら自分流に生きている人たちの沢山の出会いに感謝です。(佐藤)

地域のために・自分のために、楽しみながら活動している人たちに会えました。楽しい取材の様子が伝われば！と思っています。(情報誌担当)

情報啓発誌の新しい名前のお知らせです

●青森県男女共同参画センターでは、男女の共生をめざして情報啓発誌名を「クローバーあおもり」にしました。より良い誌面作りをめざしていきますので、今後ともご意見をどしどしお寄せください。

(情報誌担当)

「クローバーあおもり」の定期購読をご希望の方は、年間送料(160円切手×2枚)を同封のうえ、青森県男女共同参画センターまでお申し込みください。

クローバーあおもり

第6号 平成16年3月

編集・発行

青森県男女共同参画センター
〒030-0822 青森市中央3丁目17-1

Tel 017-732-1085

Fax 017-732-1073

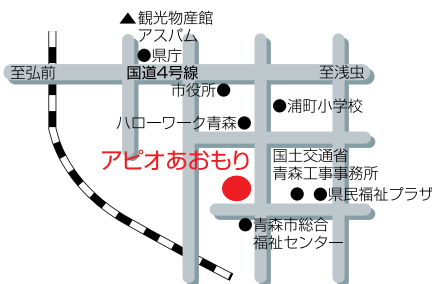
http://www.apio.pref.aomori.jp/sankaku

編集スタッフ/小山内則子 工藤恵美子

佐藤 広美 田中 栄子



「アピオあおもり」は、男女共同参画センターと子ども家庭支援センターの複合施設です



市営バス利用

- 中央循環線「アピオあおもり前」下車
 - JR青森駅前3番乗場より下記行きで、15分「働く女性の家前」下車、徒歩3分〔市民病院線、横内環状線、問屋町行き、浜田循環線、朝日放送行き、青森公立大学行き〕
 - 国道4号線「市役所前」下車、徒歩8分
- ※公共交通機関をご利用の上、ご来館ください。